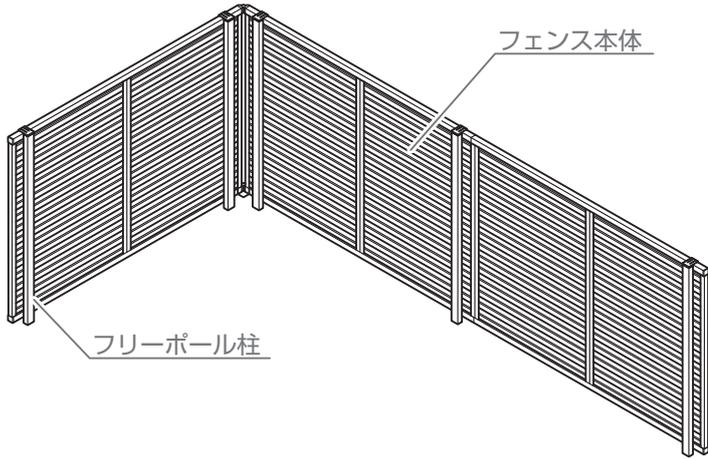


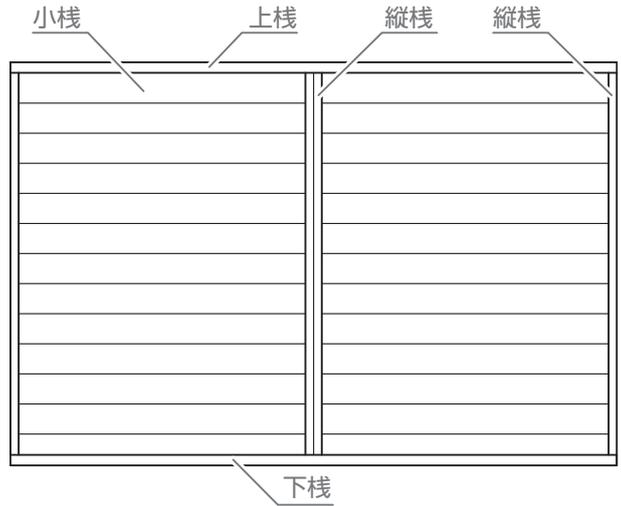


フェンスAB(T-14・T-16) フリーポールタイプ

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。



●フェンス本体 各部名称



□対象機種

本書は下記機種が対象になります。
YL2型、YL3型、YS2型、YS3型、YM2型
YL1型、YM1型のT-14サイズは対象ではありません。

■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

安全に関する記号と説明

- 警告** ・ 取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。
- 注意** ・ 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示します。

情報に関する記号と説明

- お願い** ・ 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 補足** ・ 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

ねじ等の締結部品の記号

ねじやナット等の締結部品を記号で示してます。(例：1a、1b、2c等)
締結部品の種類は「**梱包明細表**」を参照してください。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

□ 施工の前に

! 警告

- フェンスは隣地との境界を示す目的で設置するものです。転落防止を目的とした防護柵や歩行補助を目的とした手すりとしては使用しないでください。特に崖上や高台など、転落してケガをするおそれのある場所へは施工しないでください。

! 注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。

! お願い

- 施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に十分確認をしてください。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 施工終了後、WEB取扱説明書へのご案内をお施主様にお渡しください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱による部材の変形・劣化の原因になります。

□ 施工上のご注意

! 注意

- ブロックに施工する場合は、厚さ15cm以上の重量ブロック(JIS A 5406の区分16(C種)以上)を使用してください。指定のブロックの使用・施工がされない場合、ブロックが倒壊するおそれがあります。
- ブロックに施工する場合、基礎形状および配筋は日本建築学会の推奨基準に則り施工してください。
- ねじは当社指定品を指定本数使用し、下記締付トルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
〈推奨トルク〉アルミ φ4ねじ:1.5N・m±0.5N・m (15±5kgf・cm)
樹脂 φ4ねじ:1.0N・m±0.5N・m (10±5kgf・cm)
- 施工時に製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。アルミなどの金属が腐食するおそれがあります。
- 柱と本体ジョイント部の間隔は300mm以内に施工してください。それ以上離れると製品強度が維持できなくなります。
- ブラケットや継手などの、現場でねじを使用し組付け・締結・調整を行った箇所は、施工後にゆるみがないか締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故のおそれがあります。
- 柱に組み付けている柱補強材や発泡材は取外さないでください。また柱の内部にモルタルを詰めたりしないでください。腐食するおそれがあります。
- 組付け後、必ず鋭利な切断面やバリが露出していない事を確認し、修正してください。ケガをするおそれがあります。
- 柱埋め込み時には水抜き穴を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し、破裂するおそれがあります。
- コーナー部には風が集中するため、必ず柱を2本施工してください。フェンス本体やブロックが倒壊するおそれがあります。
- 製品の改造は絶対にしないでください。

□ 施工上のお願い

つづき

💡 お願い

- モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具(保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・製品の荷扱い、施工は適正な人数で行ってください。状況により、道具(台車や脚立など)を使用してください。
 - ・本体小棧に手をかけて荷扱いしないでください。本体が破損することがあります。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 施工についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 必ず注意シールを目立つ位置に貼ってください。

□ 基礎工事について

⚠️ 注意

- コンクリートまたはモルタルには、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤(凍結防止剤、凝固防止剤、急結剤など)は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食するおそれがあります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。
- 基礎の大きさ、基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって(堅牢な地盤、軟弱な地盤など)基礎部のコンクリートの量(体積)を十分配慮してください。
- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。

チェックリスト

※下記項目は重要事項ですので必ず点検してください。

●ねじ止め、水抜き孔、ブロック、注意シール

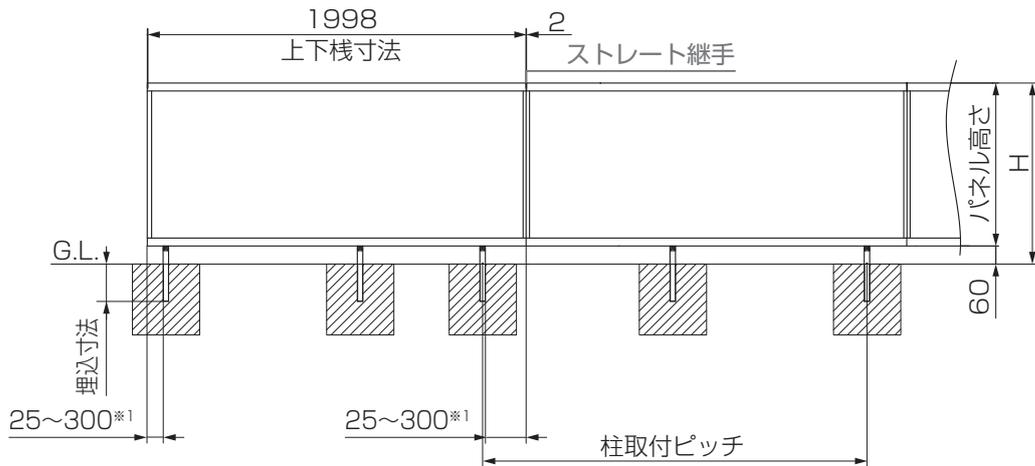
No.	ページ	チェック内容	
1	4	柱の水抜き孔は塞がっていませんか。	<input type="checkbox"/>
2	5	ブロック(塀)の厚さは15 cm以上ですか。	<input type="checkbox"/>

No.	ページ	チェック内容	
3	6	取付けねじは同梱のねじを使用し推奨トルクでの取付けを行い、ゆるみがないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
4	8	製品の目立つ場所に同梱の注意シールを表示しましたか。	<input type="checkbox"/>

1 基本寸法図

注意

●柱と本体ジョイント部の間隔は300mm以内に施工してください。それ以上離れると製品強度が維持できなくなります。



寸法単位 mm

柱呼称	H	パネル高さ	埋込寸法	柱取付位置		
				※1 フェンス端部 ～柱端部まで	柱取付ピッチ (耐風圧強度34m/秒)	柱取付ピッチ (耐風圧強度42m/秒)
T-14	1400	1340	260	25~300 (連結部同等)	2000以内	1000以内
T-16	1600	1540				

2 柱の施工

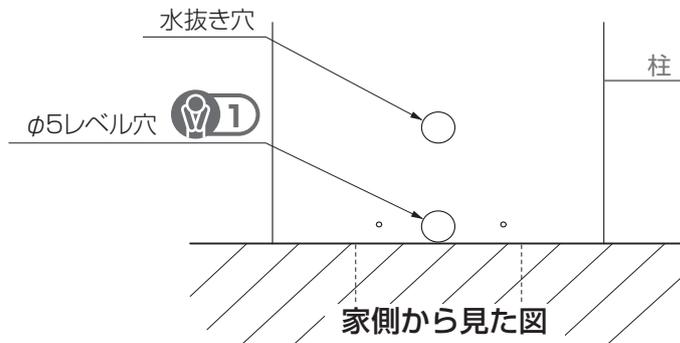
1:各柱を「●基礎寸法表」にしたがって、施工する

お願い 1

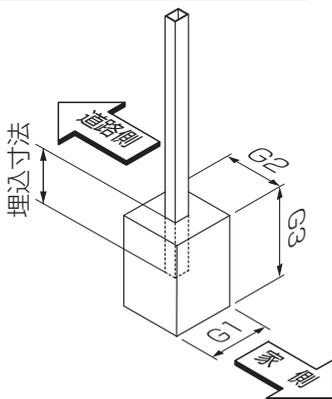
●各柱のレベル穴は水平にそろえて取付けてください。水平にそろっていないとフェンスの連結ができなかったり、上ブラケットが取付けられなくなる場合があります。

注意

●柱埋込み時には水抜き穴を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し破裂するおそれがあります。



▼ 独立基礎の場合 ▼



●独立基礎寸法表

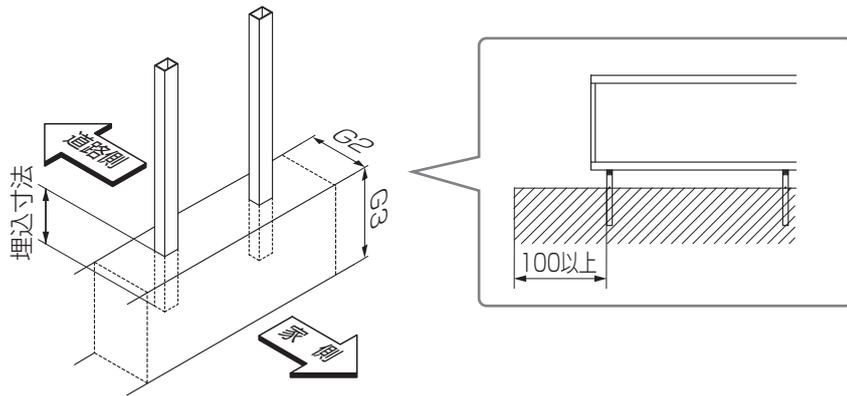
寸法単位 mm

柱呼称	耐風圧強度 風速34m/s相当仕様			耐風圧強度 風速42m/s相当仕様		
	G1	G2	G3	G1	G2	G3
T-14	300	300	450	300	300	400
T-16	350	350	500	300	300	450

※地耐力は 100kN/m² で計算

2 柱の施工

▼ 連続基礎の場合 ▼

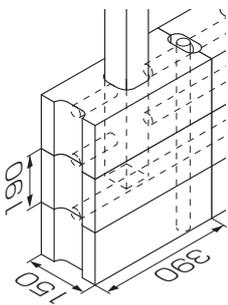


● 連続基礎寸法表

寸法単位 mm

柱呼称	G2	G3
T-14	300	300
T-16	300	300

▼ ブロック施工の場合 ▼

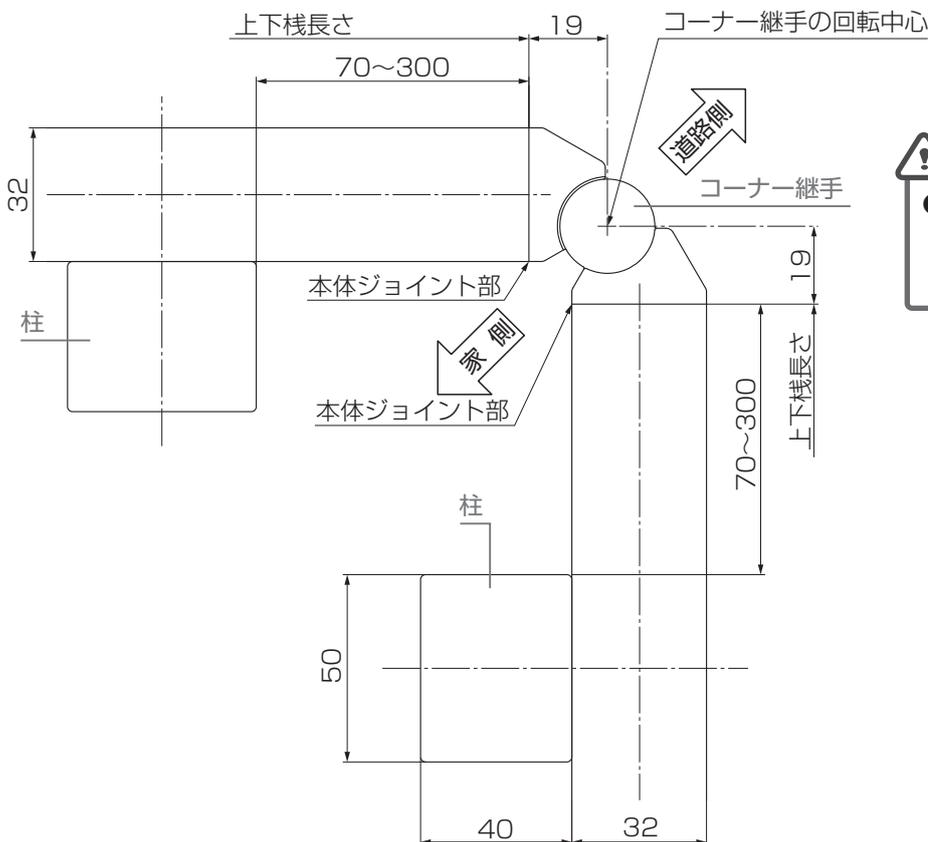


! 注意

- 厚さ15cm以上の重量ブロック（JIS A 5406の区分16（C種）以上）を使用してください。
- 配筋は、日本建築学会の設計基準に則り施工してください。指定のブロックの使用・施工がされない場合、ブロックが倒壊するおそれがあります。
- ブロック塀（フェンス含む）総高さは2.2m以下で施工してください。

▼ コーナー継手を使用する場合 ▼

- 図はコーナー角度90°（出入隅共通）の場合です。
- コーナー継手の取付は取付説明書「フェンスAB コーナー継手、コーナーポール、コーナー目隠し材<C469>」を参照してください。



! 注意

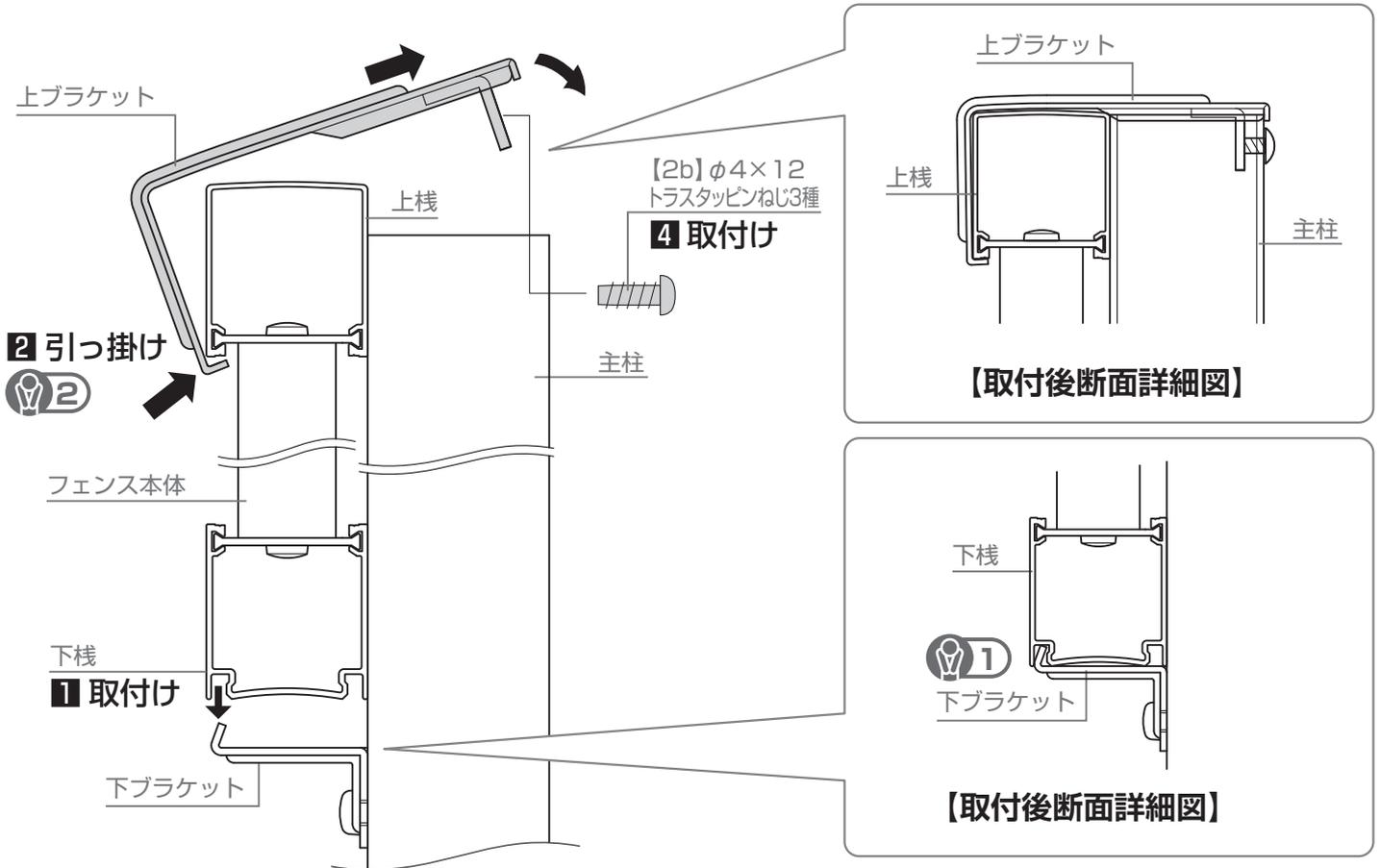
- コーナー部には風が集中するため、必ず柱を2本施工してください。フェンス本体やブロックが倒壊するおそれがあります。

3 本体の施工

注意

●現場で取付けするねじは、施工後に締結具合を必ず確認してください。締結不良は風による破損・飛散事故のおそれがあります。

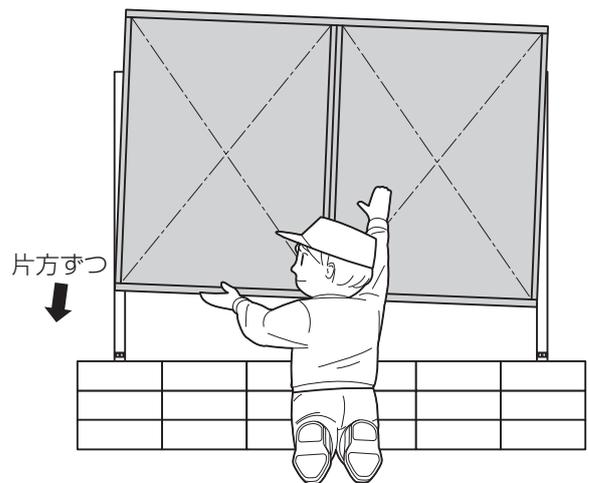
- 1: フェンス本体の下棧の溝に下ブラケットのツメが入るようにフェンス本体を主柱に取付け
- 2: 上ブラケットを上棧の端に引っ掛け
- 3: 上ブラケットを柱側に寄せて柱に仮置き
- 4: 上ブラケットを【2b】で主柱に取付け



お願い

▼ フェンス本体が取りまわし難い場合 ▼

- 適正な人数で施工してください。フェンス本体が取りまわし難い場合はフェンス本体をG.L面に仮置きし片側ずつ下ブラケットのツメにかかるよう乗せてください。
- ・仮置きする際は養生するなど、キズがつかないように配慮してください。
- ・現場の状況により脚立や仮置き台を使い安全に配慮し作業してください。
- ・本体小棧に手をかけて荷扱いしないでください。本体が破損することがあります。



▼ 上下ブラケットについて ▼

- 位置を確認してから取付けてください下棧に下ブラケットのツメが入った後は位置の調整がしづらくなります。
- 取付後、【取付後断面詳細図】の通り施工されているか確認してください。ブラケットのかけが浅いとフェンス本体が外れる原因になります。

▼ フェンス本体を外す場合 ▼

- 下棧小口面を横方向からゴムハンマー等で叩いて下ブラケットのツメを外し、フェンス本体を持ち上げて取り外してください。フェンス本体を強引に外すと破損することがあります。

3 本体の施工

4: 上棧、下棧に各ストレート継手を差込み、【2a】φ4×10トラスタッピンねじ1種でフェンス本体を連結

5: 本体の縦棧に縦棧蓋を取付け

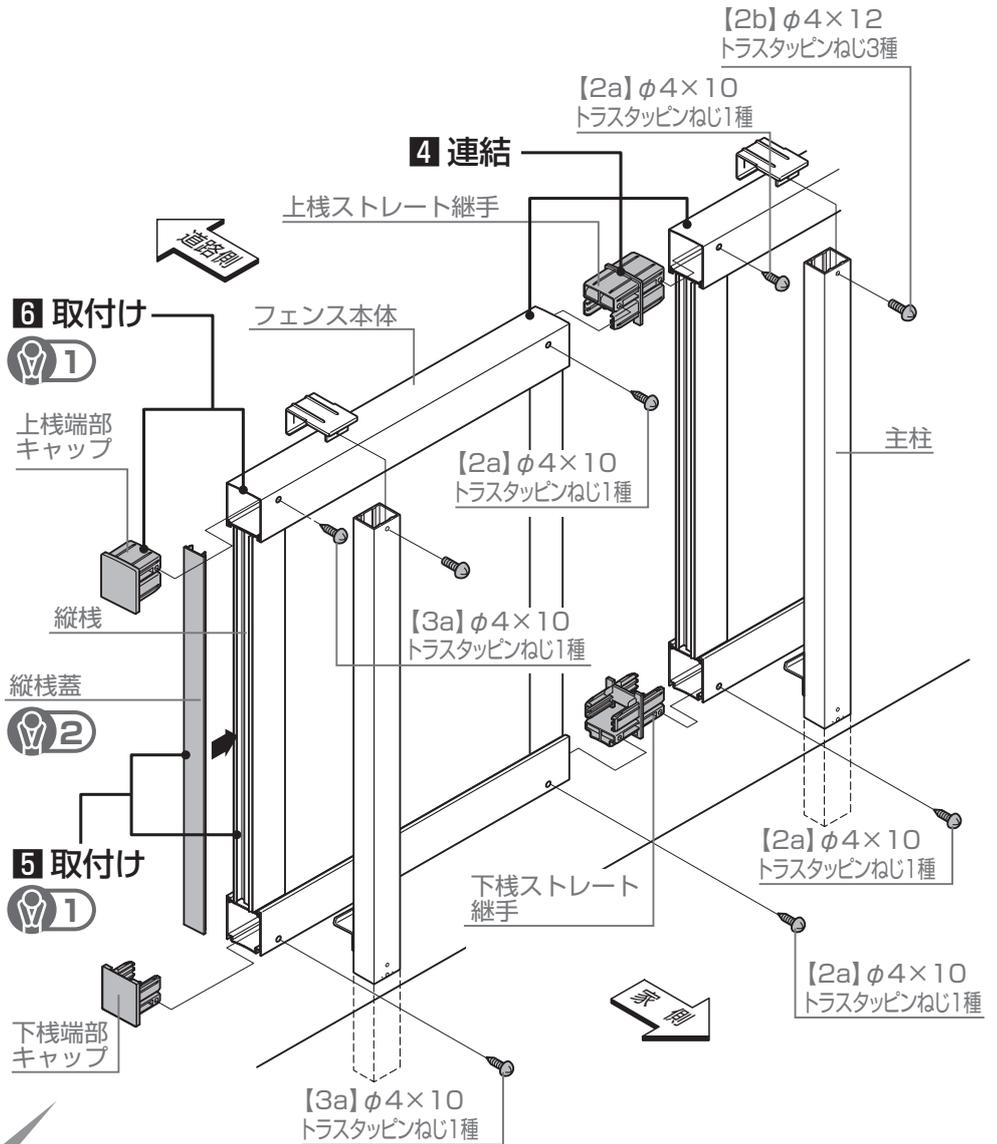
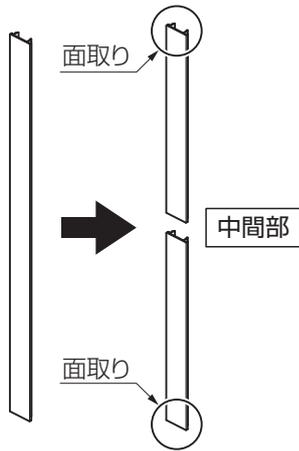
6: 上棧、下棧の端部に、端部キャップを【3a】φ4×10トラスタッピンねじ1種で取付け

お願い 1

●縦棧蓋と上下棧端部キャップが干渉しない様に取付けてください。干渉すると縦棧蓋が外れる原因になります。

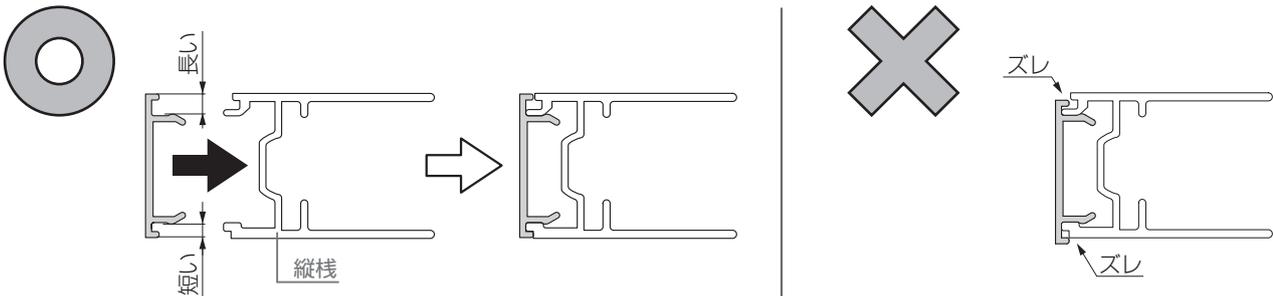
お願い 2

●柱ピッチ1m以下で施工する場合、縦棧蓋を半分に切断後、下図のように上下を面取り（バリ取り）し、中間部に隙間ができないよう取付けてください。1本のまま取付けると強風時に縦棧蓋が外れる原因になります。



お願い

●縦棧蓋の取付けは家側・道路側の向きがあります。左右で逆転して取付けてください。逆に取付けると、縦棧と縦棧蓋にズレが生じます。



4 本体の切詰め ※本体を切り詰める場合の作業です。

●別売りの切詰め端部カバーが必要になります。切詰め方法は、取付説明書「切詰め端部カバー〈EXM-091〉」を参照してください。

5 注意シール

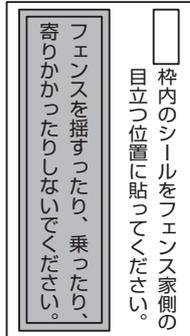
1:注意シールをフェンス本体家側、または柱に貼る

お願い

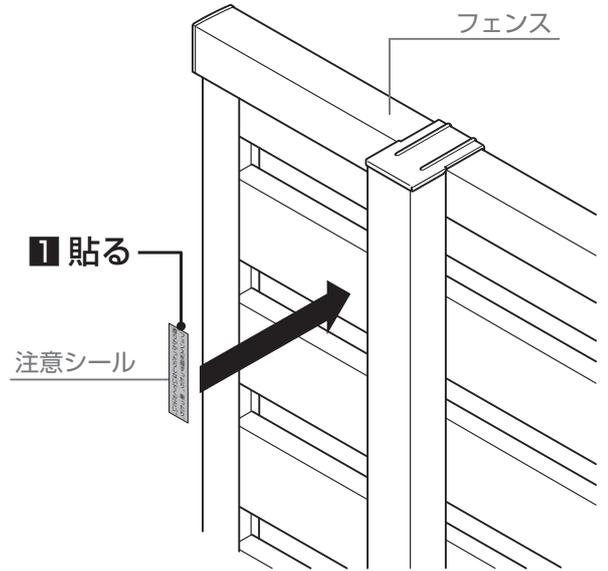
- 必ず注意シールを目立つ位置に貼ってください。

補足

- 注意シールは、施主様に安全に使用していただくために必要です。



注意シール



梱包明細表

【1】フェンス本体		
名称	略図	員数
フェンス本体		1
【2】フリーポール柱		
名称	略図	員数
T-14、T-16 (※1)		1
上ブラケット		1
上棧ストレート継手		1
下棧ストレート継手		1
【2a】φ4×10トラスタッピンねじ1種		4
【2b】φ4×12トラスタッピンねじ3種		1

※1 T-14、T-16柱には、補強材が入っています。

【3】上下棧端部キャップセットE		
名称	略図	員数
上棧端部キャップ		2
下棧端部キャップ		2
縦棧蓋		2
【3a】φ4×10トラスタッピンねじ1種		4
注意シール		1
取付説明書〈EXM-177〉	—	1
WEB取扱説明書へのご案内〈EXM-168〉	—	1

取説コード

EXM-177

JZZ641454
202412_1049